

学界消息

史学研究会関係

史学研究会二月例会

二月七日(土) 午後一時より

於楽友会館

鎌倉幕府法の封建的性格

上横手雅敬氏

英国地方史研究の現状

越智 武臣氏

国史関係

読史会一月例会

一月三十一日(土) 午後一時より

於陳列館演習室

調庸諸負制度と富豪層

戸田 芳実氏

——名の歴史的前提について——

加藤弘之について 平林 一氏

読史会予備会

二月二十八日(土) 午後五時より

於スター食堂

本年度卒業生九名をはじめ、小葉田・赤松・

柴田教授、岸助教授、上横手講師ほか先輩

後輩ら約五〇名の出席をえて開催された。

本年度卒業生は大学院修士課程六名、学部

八名である。

東洋史関係

旧制大学院会例会

十二月十三日(土)

明代の武当山

明代の京宮について

一月十七日(土)

北魏の馮氏

問屋制前貸資本

二月十四日(土)

唐代の於官

韓圃より帰つて

三月十四日(土)

漢代の財政機構

明代宣府鎮考

——城堡を中心として——

東洋史談話会予備会

二月二十八日(土) 午後二時 百万遍山内

三十三年度卒業、修了生(博士課程一名、

修士課程三名、学部六名)の前途の多幸を

祈り、宮崎教授始め教官、学生三十三名が

出席し、盛会であつた。

一月三十一日(土)

於陳列館演習室

西洋史読書会は考古学談話会と共催で、昨

夏の国際考古学会に出席して帰朝された村

田敷之亮氏を招聘して、ギリシアの遺跡を

中心とする講演会が行われた。

西洋史読書会第六回春季大会

四月二十九日・午後一時半から

前五世紀アテナイ海上覇權

の対同盟政策

アカイア同盟の対マケドニ

ア政策転換

コンスタンティノウポリス

の建設とその意義

中部ドイツに於ける農民戦

争の性格について

アンシアン・レジームにお

ける分益小作農の性格

大島 隆雄

服部 春彦

地理学関係

人文地理学会 第29回例会

一月三十一日(土) 午後二時

於 京都学芸大学理科四号室

最近におけるソヴェトの経済地域

区分けの問題について 家高 憲三

フランス地理学界と一般フランス人の

地理学への関心(幻燈使用) 村上 政嗣
海外の風物(幻燈使用) 藤岡謙二郎
人文地理学会 第30回例会

二月二十一日(土)午後二時 於薬友会館

古典地理学の帶圖説に關する若干の問題 高橋 正

西都ネパール調査談(幻燈使用)

川喜田二郎

欧米地理学会の現況(幻燈使用)

村松 繁樹

地理学談話会予餞会

二月二十八日(土)午後六時

於ニューアサヒ

地理学談話会では本年度卒業生学部六名、
修士課程一名の卒業論文発表会を実習室で行
つたあと、右記によつて予餞会を行つた。参
会者は教官・先輩・学生五七名、こどもも立つ
て卒業生の前途を祝福し、八時半散会した。

考古学関係

学生実地指導見学旅行

三月二十八日—三十一日

群馬県総社古墳群(二子塚・愛宕山・宝塔
山・蛇穴山・山王塔址)——群馬大学古学研
究室——多胡碑・山ノ上碑・金井沢碑——白

石箱山古墳群(七與山・箱山)——伊勢
崎市相川考古館——天神山古墳・女体山古墳
——太田市太古庵コレクション——鶴山古墳
——岩宿遺跡。

参加者は有光教授、小林講師ほか四名。

京大卒業論文題目

国史学専攻

明治社会主義と知識人

——幸徳秋水の「思想転換」を中心に——

八・九世紀における僧形の遊

行者について

明治政權確立の一過程

——世思想の一断面

——愚管抄を中心に——

吉田松陰の政治思想

戦国大名権力の歴史的前提

石門心学の出発

——近世町人の社会思想への一つの
接近——

明治民法における親族会の史的性

明治維新と新発田藩

〔修士課程〕

土佐藩における幕藩体制の確立

石原 胤央

平安前期の土地制度 泉谷 康夫
中世若狭の社会関係 大山 喬平
八・九世紀の「富豪の輩」について 河音 能平

日本近代工業の成立

近代的政治思想成立史序説 鈴木 良

〔博士課程単位取得者研究発表題目〕

徳川幕府領の構造について 朝尾 直弘

室町時代の庄園について 熱田 公

近世成り立期における法華信仰の諸問題

藤井 学

東洋史学専攻

近代中国農村の階級分化について

王安石の市易法 小野田 実

明初の救済制度 小野寺 郁夫

十二世紀に至る高島地方に於ける

ウイグル社会の一考察(ウイグル

文書を中心にして)

菅野 正

譚嗣同について 永元 寿典

——その政治思想の構造—— 堀川 哲男

南朝建康の時代的性格について

吉川 忠夫

宋代商業上の若干の問題 梅原 郁

——特に商税を中心として——

wazir (Al-Idn 'Isa)の財政政策について
宰相 清水 誠

漢代の人頭税 永田 英正

〔博士課程単位取得者研究発表題目〕

李朝初期満鮮關係と女真社会の二つの型
河内 良弘

西洋史専攻

社会思想家としてのウイリアム・モリス
河田 修

Veneziaの発展と東方貿易との関
連について 河内 雅雄

——東方貿易の動態的一考察——

中世後期における領邦国家の権力構造
——Landstände 形成の問題と関
連して—— 国領 英雄

ギリシヤ奴隸制度 田丸 秀明

プロイセン三級選挙法改正運動
(一九一〇年) ドイツ社会民主
党の分裂について

——「歴史における人間の役割」
—— 追求の一つの試みとして——

「エートピア」管見 長妻 靖彦
真繼 明子

ロバート・オウエンとイギリス労働運動
——グラント・
ナショナルを中心として——
宮下 康夫

〔修士課程〕

ドイツ農民戦争に関する一考察
——中部ドイツ農民戦争の性格
について—— 大島 隆雄

前五世紀アテナイ海上覇権の同盟
關係に関する一考察
——アテナイの対同盟政策を中心
として—— 大牟田 章

アカイア同盟の対マケドニア政策
転換をめぐって 小貫 徹

コンスタンティノウポリスの建設
とその意義 新田 一郎

フランス地主制の一考察 服部 春彦

——一八世紀後半の「分益小作
農」について——

〔博士課程単位取得者研究発表題目〕

ワイマール共和制末期における農
民層の政治的動向 中村 幹雄

——シュレスヴィヒ・ホルシュテ
イン州の場合——

地理学専攻

双子町防府の成立と発展 相本 哲郎

東蝦夷地に於ける和夷居住地移動
足利 健亮

境界地域の地理的性格 出原 遵乘

房州の花井栽培地帯 岩瀬 和博

滋賀県栗太地方の交通路と集落に
関する変遷史的考察 上原 大輔

揚子江における汽船水運 芥藤 晨二

——南京条約より第一次大戦ま
でを背景とする外国勢力——

〔修士課程〕

湖東平野中部における町の地域的意義
木村 辰男

〔博士課程単位取得者研究発表題目〕

近世日本の地理学と北方問題 押野 昭生

考古学専攻

北九州に於ける甕棺副葬青銅器の問題
——副葬品の組合せによる編年
と分布による地域性について——
中尾 芳治

ミロマンにおける Upper Palaeolithic
Ageの特性 河原 純之

会 告

史学研究会の新役員について

史学研究会の役員は、さる三月三十一日をもつて任期満了となりましたが、新役員は会則の規定によりまして次の通り選出されました。(評議員は史林四二ノ一所報会告の通り昭和三十三年十一月二日開催の会員総会で承認されました。理事長・理事・監事は昭和三十四年四月十七日開催の評議員会において、互選いたしました。また委員は理事長の委嘱によるものであります。)

会 告

評 議 員	監 事	理 事 長	理 事
小 木 小 会 藤 藤 柴 織 赤*	藤 岡 謙 二 郎	藤 岡 謙 二 郎	赤 松 俊 秀
牧 内 畑 田 雄 次	前 川 貞 次 郎	前 川 貞 次 郎	有 光 教 一
実 信 龍 雄 石 田 一 良	水 野 清 一	水 野 清 一	井 上 智 勇
繁 藏 雄 貝 塚 茂 樹	佐 伯 俊 男	佐 伯 俊 男	井 上 智 勇
佐 伯 俊 男	富 井 三 郎	富 井 三 郎	井 上 智 勇
酒 井 三 郎			

委 員

坂 本 太 郎	澄 田 正 一	竹 内 理 三	中 山 治 一	西 井 克 己	野 間 三 郎	林 健 太 郎	福 尾 猛 市 郎	松 井 武 敏	水 川 温 二	村 松 繁 樹	横 田 健 一	朝 尾 直 弘	中 村 幹 雄
定 金 右 源 二	曾 我 部 静 雄	角 田 文 衛	長 広 敏 雄	西 村 睦 男	羽 田 明	林 屋 辰 三 郎	藤 井 駿	松 本 信 広	宮 崎 円 遵	山 崎 宏	米 倉 二 郎	熱 田 公	山 澄 元
末 永 雅 雄	高 瀬 重 雄	中 原 与 茂 九 郎	奈 良 本 辰 也	野 上 俊 静	原 弘 二 郎	樋 口 隆 康	前 田 一 良	三 品 彰 英	村 田 敦 之 亮	山 本 達 郎		小 野 山 節	横 山 裕 男

(各アイウエオ順)

会費納入についてお願い

最近、会費納入が再び低下しております。会費滞納の向には至急御納入下さいますよう御願いたします。なお、本誌の毎号定価は一八〇円ですが、会費は年額九〇〇円、一号当二五〇円として残高を計算しております。為念御注意申しあげます。

史 学 研 究 会